

都道府県番号	26
都道府県名	京都府

学校名及び規模

学校名	福知山市立成和中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	4	3	13	28
生徒数	114	111	123	11	359	

研究の概要

1 研究主題

「確かな学力を付けるための、個に応じた指導方法の研究と実践」  
～実践的コミュニケーション能力の育成と評価の在り方～

2 研究主題設定の趣旨

[生きる力]の知の側面である[確かな学力]を育成するためには、基礎的・基本的な内容を確実に定着させ、学ぶ意欲や表現力を高めることが必要である。そのためには、個に応じた指導方法を工夫改善していかなければならない。  
英語科の主要な目標は、「実践的コミュニケーション能力の育成」であり、「コミュニケーションを図ろうとする態度の育成」と「言語知識の習得」をバランスよく、個に応じて指導していくことが必要である。温かい人間関係を基盤に、楽しく学び合う体験を積み重ねていくことと、計画的に自己表現の場を設定することが効果的であると考えられる。また、適切な評価をすることにより、学習意欲を高めることができると考える。

研究の概要

1 指導体制の工夫改善

(1) 学習集団の編成

ア 「均質学習集団」の編成

英語の成績をもとに、2学級を3つの学習集団に編成する。3つの学習集団の英語の総合力をほぼ等しくし、学習集団は年間5回編成する。

習熟の程度に差があるのは自然なことで、教えあいながら習得していくことを大切にする。

学級の枠を越えた学習集団の編成は、生徒にとっては楽しみであり、新しい人間関係を構築し、これが「実践的コミュニケーション能力の育成」に繋がる。教員が意図的に多様なペアを組ませたり、生徒が申告した「ベストパートナー」で学習させたりすることにより、一層の学習効果が上がる。

イ 「習熟度別学習集団」の編成

「習熟度別指導」においては「基礎コース」「標準コース」「発展コース」を設定し、補充的な学習、発展的な学習に取り組みさせている。学習の達成目標及び学習方法を明確に生徒に提示し、生徒に選択させている。ほぼ100%、生徒の希望どおりにするため、英語科教員は全員でコース指導を受け持つ。生徒は自分で決定したという意識を持つことで、意欲を持って学習に取り組む。学習後のアンケートでは、94%の生徒が授業内容に満足していた。

ウ 学習集団の効果的な編成

「均質学習集団」と「習熟度別学習集団」での指導は、どちらか一方に偏るのではなく、年間指導計画にバランスよく位置付け編成している。また、教材の内容によって「課題別学習集団」の編成も行い、多様で柔軟な学習集団を編成することにより、指導の効果を上げている。

(2) 教員の指導体制

ア 英語担当教員は、加配2名を含め4名である。全員で指導するという観点から、それぞれの教員が1・2・3年生の授業を受け持つことを基本とする。3学年を教えることのメリットは、教員が3年間を見通した指導ができることと、授業を通して全校の生徒とのよりよい人間関係を築けることである。生徒にとってのメリットは、全英語教員に気軽に質問できたり、話せたりすることである。

イ 教員は3～4つの学習集団をローテーションして指導することを原則としている。教員が指導する学習集団は固定せずに、一定期間でローテーションする。定期テストを一区切りとしてローテーションすることが多い。

ウ 教員は英語教科係会で「成和授業スタイル」を作り上げ、組織として全員足並みを揃えて指導に当たる。生徒からの教員評価も自己の研修材料とする積極的な姿勢を持ち、日々指導力向上に努める。(授業スタイルが統一されているので、生徒はとまどうことなくスムーズに授業を受ける。教員の持ち味やよさを生徒は肯定的に受け止め、学習に取り組む。AETも指導に加わるので、生徒は様々な英語に触れる機会がある。)

エ 各教員の英語指導の役割分担は、全学年の調整役、1年生責任者、2年生責任者、3年生責任者とし、組織的に取り組んでいる。

オ 毎週水曜日に英語教科係会を開き、全学年のレスンプランを検討し、指導方法や指導観等の統一を図っている。この教科係会で、英語科の授業に関わる様々なことを、相談・報告・連絡・調整し決定する。

## 2 指導方法の工夫改善

### (1) 実践的コミュニケーション能力の育成

#### ア 音声指導の重視

音声面を重視した授業を入門期から継続して行っている。音読発表も毎時間行い、教員が生徒を個人指導する機会も設定している。ペア学習も多く設定し、そこでの教え合いや、生徒自身の間違いの気付きなども大切にしている。

言語の使用場面が設定されている単元では、具体物を用いての模擬練習を行い、オリジナルスキットを作らせて演じさせるテストを行っている。

#### イ 導入場面での多様な反復学習の実施

英語学習の雰囲気や切り替えさせるため、また多様な反復練習の場として全学年工夫して取り組んでいる。全員ができる程度の簡単な課題をたくさん与え、ゲーム感覚で楽しんで取り組ませることにより、基礎的・基本的事項の定着を図り、全体のレベルアップを目指している。時には難易度の高い課題も工夫して取り組ませる。

内容は、「成和ペラペライングリッシュ」、「チャットタイム」、「Q & A タイム」、「メモリータイム」、ビンゴゲーム、小先生による音読（宿題点検）カードゲーム、オリジナルスキット、「音ペンマンシップ」、英語の歌などである。

#### ウ 自己表現活動等の場の設定

自分の思いを英語で表現する機会を多く持つことにより、その表現が生きて自分のものとなり、必要なときに使えるので、自己表現を含む発表場面を多く設定している。発表をすればスティッカーを渡して自己評価表に貼らせ、目で見える評価をしている。1時間の授業の中で音読発表や自己表現の場を2～3回は設定する。

また、年間計画に従って、スピーチコンテスト・デモンストレーションテスト・オリジナルスキットテストなどを実施し、生徒自身が自分の英語の力がどれくらい付いているかを確認する機会としている。楽しい取組になるように演出も工夫している。

#### エ 基礎・基本の徹底

毎時間、単語や英文のプリント宿題を出している。基本を定着させるための反復練習や、教科書以外の読み物を読み進める発展的な学習の内容である。ビンゴゲームで活用するワークシートが裏面にある両面刷りである。臨機応変に、発展・深化・補充と、生徒の実態や時期に合わせている。ノートに教科書の英文を書かせることも課題としている。「書くこと」については、家庭学習に意識的に多く取り入れている。折に触れ、書いて定着させることの大切さを説いているので、ほとんどの生徒がしっかりと宿題をしてくる。

#### オ 目標達成に向けた努力と自己肯定感の重視

誰でも習得途中では、間違えたり、流暢に言えなかったりするものである。日々の授業では練習を重んじ、目標に到達するように努力させる。評価はテスト場面を設定して行う。生徒はテストの場面で、流暢に英語が読めたり、スピーチがつまらずに言えたり、英語の質問に上手に答えられたりすると自分を誇らしく感じ嬉しくなる。学習意欲を向上させるため、こういう肯定的感情を積み上げるように取り組んでいる。

#### カ 評価の工夫

- 毎時間の授業では、学習意欲を向上させるために言葉での適切な評価を行う。
- 生徒は、1年間使用できる冊子形式の「自己評価表」にその時間の自己評価を記入する。項目は、「宿題点検」「今日の英文」「感想欄」であり、導入時に行う活動のワークシートも添付している。教員は授業後必ず点検し、励ましのメッセージを書き添えることも多い。生徒は1年間継続して使うことにより、学習の成果が積み重なっていく意識が生まれ、学習意欲の向上に有効であり、教員は生徒の学習状況を把握できる。
- 客観的な評価をするため、スピーチや音読テストなどは、学級単位で授業を行い、全員の教員が同一学級に入り評価する。
- 評価規準に基づいて、「具体の評価規準」を設定し、評価観を統一して評価の客観性を高める。複数教員で評価をして英語教科係会を開き、具体的に再度、評価規準を調整する。

### (2) 開発した教材と活用の仕方

#### ア 『成和ペラペライングリッシュ』

ねらい	自分の思いをずっと英語で言える。
補充的活用	教科書の本文から、基本的な表現や会話を発展させるのに有効な表現を選び、ゲーム形式で楽しみながら行わせる。
発展的活用	ある状況を英語で説明し、それに対して生徒が英語で応答する。JTEとAETの会話を発展させるように行くと、より実践的なものになる。賛成・反対や季節、ペットなどの話題で、A・Bに分かれて意見を言い合う。

#### イ 『ビンゴゲーム』

ねらい	単語力を定着させる。
補充的活用	新出単語ばかりではなく、教科書の本文の順番どおりに既習の単語を書かせる。それをつなぎ合わせると本文の日本語訳が自然と分かるように工夫する。
発展的活用	定期テスト前には、重要単語ばかりを書かせ、定着させる。習熟度別指導の時には、熟語や英作文のビンゴシートにする。教員の発音した単語を黒板には板書しない。

ウ 『発言チップ』

ね ら い	自ら英語で発言する勇氣と態度を養う。
補充的活用	「均質学習集団」で Classroom English を使わせることを目標に行う。
発展的活用	習熟度別指導の「発展コース」でチップの数を増やして行う。

エ 『チャットタイム』

ね ら い	さまざまな話題について英語で自分の考えが発表でき、他者の意見を理解できる。
補充的活用	会話のパターンを提示して行う。
発展的活用	習熟度別指導の「発展コース」での実施が有効である。

オ 『Q&Aタイム』

ね ら い	英語での質問内容を理解し、早く、正しく応答する。
補充的活用	「QA - 100」を見ながら、ペアで言い合う。
発展的活用	黒板に掲示してある質問カードの中から1枚選び、その質問を始まりとするオリジナルスキットを作らせて発表させる。 会話テストもこれらの質問の中から行う。

カ 『小先生活動』

ね ら い	人前で自信を持って英語を話す態度を育成する。
補充的活用	音読テストや定期テスト前は指定ページを音読させる。
発展的活用	音読前にClassroom Englishで指示をし、音読後に簡単なQ & Aを行わせる。

キ 『シール(スティッカー)発表』

ね ら い	自己表現の場を設定し、自己表現することを喜びと感じる生徒を育成する。
補充的活用	その日に習ったページを音読発表する。
発展的活用	Your Turn の会話を発表させる。 暗唱させる。 本文の内容を部分的に変え、自分の思いに近い発表をさせる。 オリジナルスキットを作り、発表させる。

ク 『イングリッシュカード』

ね ら い	「学習ポートフォリオ」と位置付け、英語学習のさまざまなことを蓄積していくとともに、生徒の変容を早く知る。
補充的活用	「今日の英文」に、その日に学習した重要文を書かせる。
発展的活用	「今日の英文」に自由英作文、指定英作文、J T E や A E T への質問などを指定して書かせる。 「振り返り」の文章で見本となるものは他の生徒に紹介し、その生徒から学ぶ。 「振り返り」の文章も英語で書かせる。

(3) 指導に生かす評価(「計画」,「指導」,「評価」の一体化)

ア 計画

「少人数授業指導形態及び評価計画」を各学年作成し、計画的・組織的に行っている。またこの計画は毎年見直し、実態に合ったものになるように改善している。

イ 指導

計画に基づき、目標が達成できるように指導を進める。生徒に「何がどの程度できるようになればよいのか」を明確に伝え、努力させる。小刻みに評価場面を設けることにより、目標を明確にして指導できる。

ウ 評価

公平に客観的に評価するために、テストは原学級で行う。担当している教員全員で評価する。生徒は多人数の中で自分の到達点を知る機会となる。その達成度が十分満足できる生徒については、賞状を渡してその素晴らしさを讃えたり、英語科ポスターを掲示して全校に知らせたりする。

エ 個別指導

担当教員全員が、全生徒の達成度を知り、次時よりきめ細かな個別指導が行われる。意欲減退の生徒には、適切に励ましの声かけをしたり、「イングリッシュカード」へのメッセージを書いたりする。Cがついた生徒には、ていねいに机間指導を行い、つまずきに対しての手立てをする。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               3学級以下                       4～6学級  
                                  7～9学級                       10～12学級  
                                  13～15学級                       16学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  その他
- 【研究教科】               国語               社会               数学               理科  
                                  外国語               音楽               美術               技術・家庭  
                                  保健体育               その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

- ・ 少人数指導において、英語科担当の全教員が各学習集団をローテーションして指導するとともに、それぞれが全学年の授業を受け持っている。
- ・ 効果的な授業の展開形態が確立している。
- ・ 導入場面での多様な反復学習が充実している。